



# 第7回日本小児内分泌学会 九州・沖縄地方会



日時：2024年2月11日（日曜日）10:30から17:45

会場：宮崎市民プラザ4F「ギャラリー」（宮崎市橘通西1-1-2）

電話：0985-24-1008



宮崎市民プラザ

連絡先：第7回日本小児内分泌学会九州・沖縄地方会事務局

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原 5200

電話番号：0985-85-0989（小児科事務室）

当番世話人：澤田 浩武

(sawadah@med.miyazaki-u.ac.jp)



2024年1月17日初版

2024年1月21日2版

【会場案内】

宮崎市民プラザ4F「ギャラリー」

〒880-0001 宮崎市橘通西1丁目1番2号  
TEL.0985-24-1008 FAX.0985-29-2244



**バス** 橘通1丁目バス停をご利用ください。橘通1丁目バス停から徒歩3分

**電車・バスをご利用の方** 宮崎駅・南宮崎駅からバスで10分、徒歩30分

**空港をご利用の方** 宮崎空港からバスで25分、タクシーで20分



【開催概要】

学会名 第7回日本小児内分泌学会 九州・沖縄地方会

・会期：2024年2月11日（日）

・会場：宮崎市民プラザ4階ギャラリー

・学会スケジュール

受付開始（4階ギャラリー入口）10時から

世話人会（4階小会議室1）10:00～10:25

学会（4階ギャラリー）10:30～17:45

懇親会 19:30から「Japanese Restaurant りょう」宮崎市橋通西3-1-24

・参加資格：事前参加登録した日本小児内分泌学会の九州・沖縄地区の会員および世話人の指導のもとにある入会予定・希望者。

【プログラム概要】

1) 一般演題

・カテゴリーA：一般演題：症例報告（診断確定例）、研究報告

1題15分（発表10分、質疑応答5分）

・カテゴリーB：難渋症例：未診断例・治療に難渋している症例

1題20分（発表10分、指定発言5分、質疑応答5分）

2) 教育講演

・「小児内分泌をたのしく学ぼう」

東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科 長谷川行洋 先生

・「小児内分泌分野の難病医療」

医誠会国際総合病院 小児科 大藪恵一 先生

3) ランチョンセミナー

・「代謝面から考える成長ホルモン治療」

大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科 森潤 先生

質問がある方はあらかじめマイクの前で準備をお願いします。

座長の先生はフロアから質問がない場合の質問やコメントをお願いします。

【参加者へのご案内】

・参加費：3,000円（学生・初期研修医は無料）

（懇親会費：5,000円 あらかじめ参加申し込みが必要です）

参加費、懇親会費は当日に「参加受付」にて徴収します。なるべく、お釣りのないようお願いします。

・日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 更新単位：2単位取得可能

参加証は当日、会場にてお配りします。

- ・ 平服でご参加ください。

**【一般演題発表者へのご案内】**

- ・ 発表は10分、質疑応答は5分です。

発表時間は厳守して下さい。発表が長引いた場合は質疑応答の時間が短くなります。

・ 利益相反の開示：共同演者を含む演者全員について、発表する研究内容に関連する利益相反の申告（演題登録日を起点とする過去3年度分）が必要です。

筆頭演者、すべての共同演者の利益相反をスライドの2枚目（タイトルスライドの後）に開示をしてください。利益相反自己申告の基準については、第53回日本小児内分泌学会学術集会のHPをご参照ください

(<http://jspe53.umin.jp/abstract.html>)。

- ・ 個人を識別できる情報（氏名、生年月日、個人識別符号など）は発表から取り除き、顔写真についてはマスクングなどして個人が特定できないようにしてください。

## Program

10:30~10:35 開会挨拶

当番世話人 宮崎大学医学部看護学科 澤田浩武

10:35~11:35 一般演題カテゴリーA セッション①(発表10分 質疑5分)

座長: 今村総合病院小児科 溝田美智代

A1. MMI 内服の有害事象により甲状腺摘出術を要した Basedow 病の2例

多久葵<sup>1)2)</sup>、齋藤玲子<sup>2)</sup>、桑村真美<sup>2, 3)</sup>、小川将人<sup>1)</sup>、山本幸代<sup>2, 4)</sup>

1)九州労災病院小児科、2)産業医科大学医学部小児科、3)産業医科大学医学部衛生学教室、4)産業医科大学医学部医学教育担当

A2. 異なる母体 TRAb 高値がもたらす異なる経過: バセドウ病母体児の同胞例の比較

伊東優哉<sup>1)</sup>、江藤潤也<sup>1)4)</sup>、吉村達<sup>2)</sup>、江頭絵里奈<sup>2)</sup>、室雅巳<sup>3)</sup>

1)佐賀県医療センター好生館 小児科、2)同 糖尿病内分泌内科、3)同 産婦人科、4)あさのはこどもクリニック

A3. 手術後も再発を繰り返したプロラクチノーマの女子例

古賀信彦<sup>1)</sup>、佐々木聡子<sup>1)</sup>、佐伯瞳<sup>1)</sup>、児島加奈子<sup>1)</sup>、八ツ賀秀一<sup>1)</sup>

1)福岡大学小児科

A4. 当院における小児性別不合症例の診断・治療の課題

本川未都里<sup>1)</sup>、川村遥<sup>1)</sup>、伊達木澄人<sup>1)</sup>

1)長崎大学病院 小児科

11:35~12:15 一般演題カテゴリーB セッション①(発表10分、指定5分、質疑5分)

座長: 産業医科大学医学部 山本幸代

B1. 薬物治療でのコントロール困難なバセドウ病の1例

笹岡大記<sup>1)</sup>、永松扶紗<sup>1)</sup>、阿南浩太郎<sup>1)</sup>、中村公俊<sup>1)</sup>

1)熊本大学病院小児科

指定発言: あさのはこどもクリニック 江藤潤也

**B2. 反復する自律性機能性卵巣嚢腫の治療方針について**

永松扶紗<sup>1)</sup>、小松なぎさ<sup>2)</sup>、山本晶子<sup>2)</sup>

1) 熊本大学病院小児科、2) 熊本中央病院小児科

指定発言：久留米大学病院小児科/聖マリア病院小児科 喜多村美幸

12:15～12:25 休憩

12:25～13:15 ランチョンセミナー(共催：ノボ・ノルディスクファーマ)

座長：独立行政法人国立病院機構宮崎東病院小児科 井上忍

「代謝面から考える成長ホルモン治療」

大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科

森潤 先生

13:15～13:25 休憩

13:25～13:35 世話人からのお知らせ

日本小児内分泌学会 九州・沖縄地方会 代表世話人 山本幸代

13:35～14:15 教育講演①

座長：宮崎大学医学部小児科 松山美静代

「小児内分泌をたのしく学ぼう」

東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科

長谷川行洋 先生

14:15～14:55 一般演題カテゴリーB セッション②(発表10分、指定5分  
質疑5分)

座長：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学 伊達木澄人

**B3. 慢性低Na血症を呈する14番染色体近位部モノソミー**

徳永成将<sup>1)</sup>、明利聡瑠<sup>1)</sup>、麻田智子<sup>1)</sup>、松山美静代<sup>1)</sup>

1) 宮崎大学医学部附属病院小児科

指定発言：大分大学医学部小児科 糸永知代

**B4. 褐色細胞腫の術前管理にメチロシンを使用した12歳女児例**

木村拓郎<sup>1)</sup>、古賀木綿子<sup>1)</sup>、海野聡子<sup>1)</sup>、西岡淳子<sup>1)</sup>

1) 久留米大学病院小児科

指定発言：熊本大学病院小児科 永松扶紗

14:55～15:05 休憩

**15:05～15:50 一般演題カテゴリA セッション②**(発表10分 質疑5分)  
座長：福岡市立こども病院 内分泌・代謝科 石井加奈子

**A5. 先天性高インスリン血症に対する長時間作用型ソマトスタチンアナログ製剤ランレオチドの有用性**

川村遥<sup>1)</sup>、本川未都里<sup>1)</sup>、浦島真由美<sup>2)</sup>、笹岡大記<sup>3)</sup>、松本志郎<sup>3)</sup>、伊達木澄人<sup>1)</sup>

1)長崎大学病院小児科、2)嬉野医療センター小児科、3)熊本大学病院小児科

**A6. 成長障害から確定診断に至った先天性腎性尿崩症の一家系**

三窪亮二<sup>1)</sup>、牧村美佳<sup>1)</sup>、渡辺恭子<sup>1)</sup>、大野拓郎<sup>1)</sup>、山下博徳<sup>1)</sup>

1)国立病院機構小倉医療センター小児科

**A7. パミドロン酸治療を行った骨形成不全症の4例**

神村未来<sup>1)</sup>、加藤嘉一<sup>1)</sup>、檜作和子<sup>1)</sup>、野村裕一<sup>1)</sup>

1)鹿児島市立病院小児科

**15:50～16:50 一般演題カテゴリB セッション③**(発表10分、指定5分 質疑5分)

座長：福岡大学医学部小児科 八ツ賀秀一

**B5. 診断・治療に難渋している糖尿病13歳女児例**

兼次拓也<sup>1)</sup>

1)琉球大学医学部小児科

指定発言：国立病院機構小倉医療センター小児科 牧村美佳

**B6. Double diabetes として加療中に成長率低下を呈したトルコ鞍空洞症の一例**

平國由佳<sup>1)</sup>、松田史佳<sup>1)</sup>、糸永知代<sup>1)</sup>、前田美和子<sup>1)</sup>、井原健二<sup>1)</sup>

1)大分大学医学部 小児科

指定発言：九州大学病院小児科 トカンヴラッド

**B7. レプチン補充治療を検討している先天性全身性脂肪萎縮症の2歳男児**

島本太郎<sup>1)</sup>、石井加奈子<sup>1)</sup>、中島佑<sup>1)</sup>、トカン ヴラッド<sup>1)</sup>、安部希<sup>1)</sup>、虫本雄一<sup>1)</sup>

1)九州大学病院 小児科

指定発言：鹿児島大学病院小児科 関祐子

**16:50～17:00 休憩**

17:00～17:40 教育講演②

座長：宮崎大学医学部看護学科 澤田浩武

「小児内分泌分野の難病医療」  
医誠会国際総合病院 小児科  
大藺恵一先生

17:40～17:45 閉会の挨拶

次担当番世話人：福岡大学医学部小児科 佐々木聡子